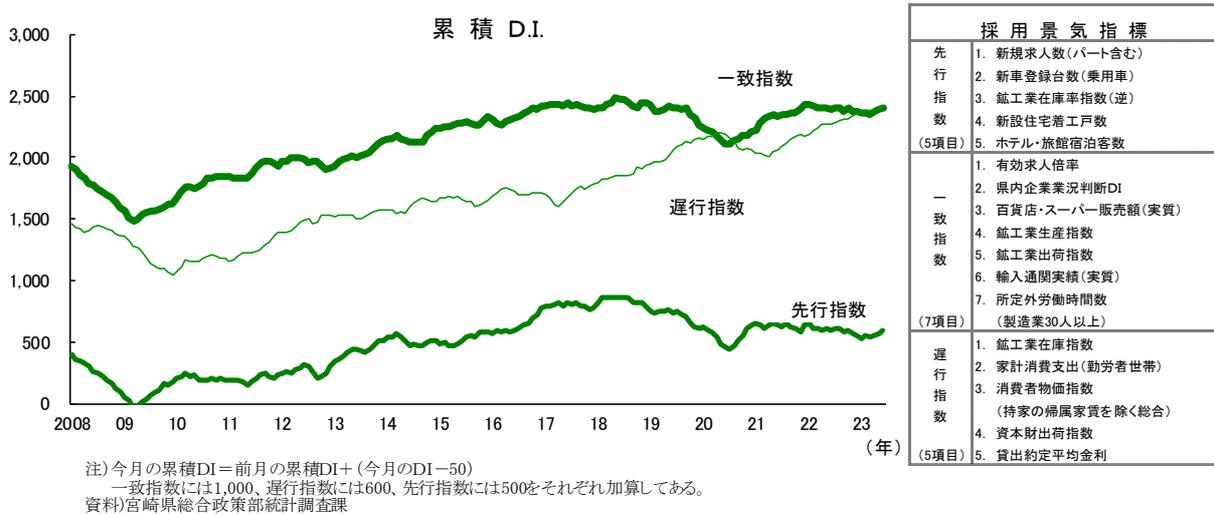


1. 景気動向指数

2023年6月の景気動向一致指数は、県内企業業況判断DI、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、所定外労働時間数（製造業30人以上）の4項目がプラスとなり、全体では57.1%と3カ月連続で50.0%を上回った（7項目のうちプラス4）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、鉱工業在庫率指数（逆）、ホテル・旅館宿泊客数の4項目がプラスとなり、全体では80.0%と3カ月連続で50.0%を上回った（5項目のうちプラス4）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）、資本財出荷指数の3項目がプラスとなり、全体では60.0%と2カ月連続で50.0%を上回った（5項目のうちプラス3）。



景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を3カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したものを。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の3つがある。一致指数が数カ月連続して50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

6月の鉱工業生産指数は、80.1で前年同月比1.7%減と16カ月連続で前年を下回った。

主要業種別にみると、繊維（同28.6%増）、食料品（同3.4%増）、化学（同1.5%増）が前年を上回ったものの、電子部品・デバイス（同39.8%減）は前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

8月の公共工事請負金額は、163億18百万円で前年同月比7.5%増と2カ月連続で前年を上回った。

発注者別にみると、国が同31.4%減、県が同2.7%減、市町村が同64.9%増、その他（独立行政法人等）が同16.0%増となった。

② 着工建築物

7月の着工建築物は、棟数は421棟で前年同月比7.1%減、床面積は7万6,690㎡で同1.8%減となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同1.2%増、床面積が同4.4%増となり、非居住用は棟数が同28.1%減、床面積が同9.3%減となった。

③ 住宅着工

7月の新設住宅着工戸数は、持家は前年を下回ったものの、貸家、分譲は前年を上回った。県内合計は578戸で前年比16.5%増と4カ月ぶりに前年を上回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

7月の百貨店・スーパー販売額は、66億7,400万円で前年同月比3.1%増と22カ月連続で前年を上回った。

商品別では、衣料品は9億9,500万円で同5.7%増、飲食料品は36億7,300万円で同2.3%増、その他計は20億600万円で同3.2%増となった。

② 乗用車新車販売動向

6月の乗用車新車登録台数は、1,828台で前年同月比47.1%増と6カ月連続で前年を上回った。

車種別にみると、普通車は1,206台で同74.5%増、小型車は622台で同12.7%増となった。

5. 消費者物価指数

7月の宮崎市の消費者物価指数は、105.3で前年同月比3.5%増だった。

6. 企業倒産

8月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は6件（前年同月0件）で、4カ月連続で前年を上回った。負債総額は5億2,300万円（同0円）で2カ月連続で前年を上回った。

7. 雇用情勢

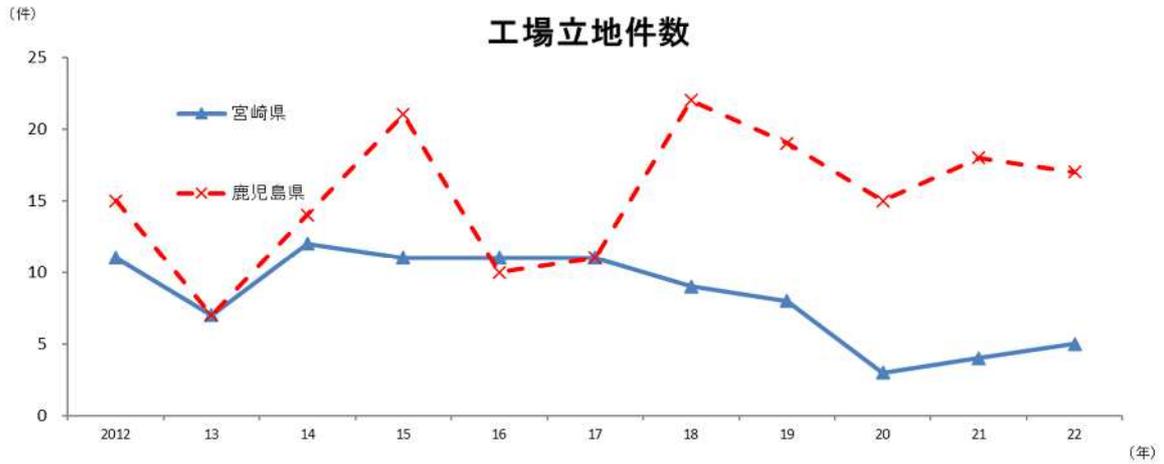
7月の有効求人倍率は、前月と同水準の1.42倍となった。

新規求人数は1万614人で前年同月比1.1%増となった。

雇用保険受給者数は、4,963人で同4.7%増と4カ月連続で前年同月を上回った。

〈今月のトピックス〉～宮崎県の工場立地件数

宮崎県の2022年の工場立地件数は5件で、前年より1件増加となった。内訳をみると食料品が3件、金属製品、電気機械が各1件となった。



資料)経済産業省「工場立地動向調査」